

令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書

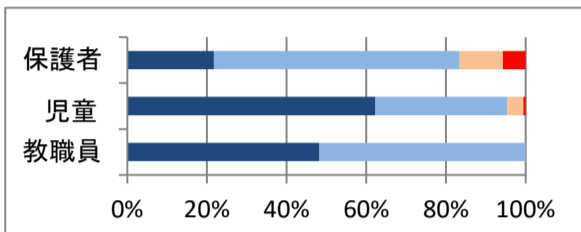
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

①豊かな心をはぐくむ教育の推進		
1 一人一人の児童生徒の尊重 学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	2 友達への思いやり 子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	3 道徳・心の教育の充実 学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
②確かな学力を育む教育の推進		
4 意欲的な学習態度 子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	5 授業力向上 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	6 ICT活用 子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
③健やかな体を育む教育の推進		
7 健康づくり 子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	8 児童生徒理解 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。	
①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実		②特別支援教育の推進
9 いじめや問題への対応 学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	10 学校の支援体制 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	11 共生社会を担う人材の育成 「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。
②特別支援教育の推進		①子どもたちの身近な安全対策の充実
12 安全と事故防止 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	13 施設・設備の安全管理 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。	

②最適な学習環境の整備

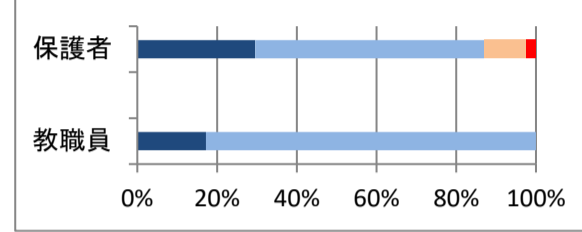
14 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



15 家庭や地域との連携協力

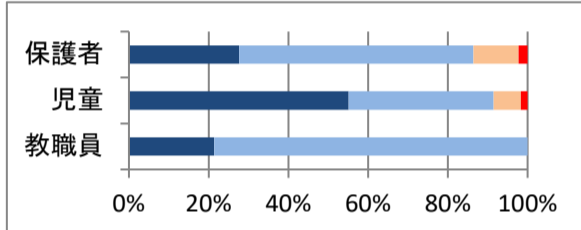
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



⑧本校の教育

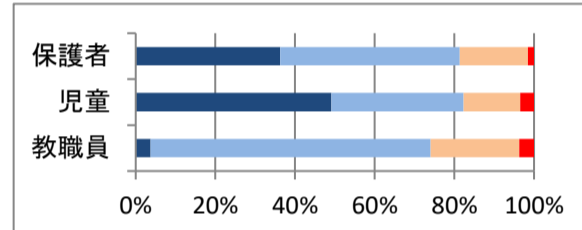
16 主体的な学び

子どもは、授業中、自分の考えをもち、友達と伝え合うことができていると思いますか。



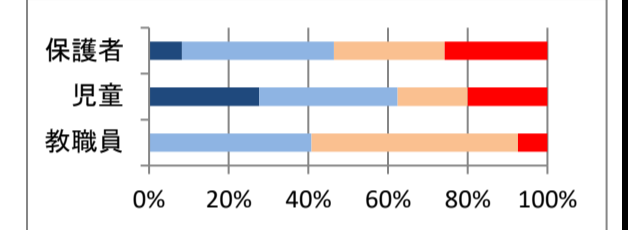
17 基本的な生活習慣①

子どもは、早寝早起き、朝ご飯の生活習慣の重要性を理解し、実践できていると思いますか。



18 基本的な生活習慣②

子どもは、メディアの時間を決めて、守っていると思いますか。



来年度の具体的な取り組みについて

学校経営重点計画の重点目標「(1)主体的に学び、確かな学力と考える力を身に付けた子どもを育成する」については、下欄に示したとおり、良好な結果が出ていると評価された。「(2)健康で安全な生活習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる子どもを育成する」については、結果が出始めてはいるがまだ課題であると評価された。来年度は、本年度の取組を継続・改善するとともに、次の点について取り組みたい。

重点努力目標(1)については、①本年度、校内研究のテーマ(副題)に「授業改善」掲げ、「めざすゴールを明確にし、アウトプットする」「学びのシェアをする」「めあて、対話、振り返りを意識した授業づくりをする」等について全職員で授業改善に取り組んでおり、教職員の授業力向上が図れているため、次年度も継続しながら更なる充実を図る。②本年度「熊本市学力検査」の結果を受けて、課題のあった単元等については本年度中に復習を済ませ、次年度も継続し、主体的な活動の基盤となる基礎的・基本的事項の習得を図る、などの取組を行う。

重点努力目標(2)については、①基本的生活習慣の確立として「早寝早起き朝ごはんの推進(科学的根拠を示した啓発の推進)」「メディアルールの作成と徹底」について各学級での取組や学年便り等での情報発信等を更に充実させる、②特に課題がある児童については家庭との連携を密にしながら個別指導の充実を図るなど、今後も継続して学校と家庭が連携を図って取り組んでいく。

保護者と教職員とで肯定的な回答に差のあった「9 いじめや問題への対応」については、生徒指導部と連携し、いじめの原因や背景、当事者の思いに寄り添いながら引き続き解決していく。また、「愛の1・2・3運動」を継続して実施することで保護者と連携して取り組んでいく。「13 施設・設備の安全管理」については、校舎施設の老朽化により修理が必要な箇所が様々な場所で生じているが、事務部との連携や学校施設課への要望等を行っていくことで教育環境の整備を行っていく。

学校関係者評価

熊本市教育振興基本計画に基づく15の評価項目(本校の独自項目を除く)において、肯定的な回答(4そう思う・3どちらかといえばそう思う)の割合の平均が三者(保護者・児童・教職員)すべてでほぼ90%を超えている。このことから、新型コロナウイルス感染症まん延防止のために制約がある中、子どもたちがしっかりと学校生活を送っており、本校の取組が全体として好評価されていると考えられる。

学校経営重点目標「(1)主体的に学び、確かな学力と考える力を身に付けた子どもの育成」について、関連する「②確かな学力を育む教育の推進」の3項目(「4」～「6」)と「16 主体的な学び」において、肯定的な回答の割合が三者でほぼ90%を超えており、良好な評価を得ている。前年度の熊本市教育委員会のタブレット端末活用研究モデル校の指定の取組の継続と共に、研究主題「自ら学びとる子どもの育成～教師自身の授業改善を通して～」を掲げ、「めざすゴールを明確にし、アウトプットする」「学びのシェアをする」「めあて、対話、振り返りを意識した授業づくりをする」等について全職員で授業改善に取り組んでおり、教職員の授業力向上が図れていることに起因すると考えられる。

学校経営重点目標「(2)健康で安全な生活習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる子どもの育成」について、「7 健康づくり」「17 基本的生活習慣①」では肯定的な回答の割合が児童と保護者の二者ではほぼ80%を超えている。このことについては、「みんなのめあて」の実践と振り返りの徹底、「全校集会での計画的な校長講話」、「学校便りや保健便り等での保護者啓発」に加え、本校と連携した「黒髪小PTA『早寝早起き朝ごはん運動』」も展開されていることから、健康安全に対する児童、保護者の意識の向上により、その効果が昨年度より継続して出ていると考えられる。今後も取組を継続していく。また、「18 基本的生活習慣②」では肯定的な回答の割合が三者とも50～65%と低かったが、本校は「15 家庭や地域との連携協力」において、保護者、教職員の二者の肯定的な割合が3年間向上しているため「ノーメディアディの実践」や「メディアルールの作成と徹底」について、家庭との連携を密にしながら継続的に取り組んでいくことで改善を図ることができると考える。

「①豊かな心をはぐくむ教育の推進」「④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実」「⑤特別支援教育の推進」については、すべてにおいて肯定的な回答の割合が90%を超えており、さらに、児童、保護者の肯定的な回答の割合が向上している。これは、欠席児童には電話をかける「愛の1・2・3運動」の日々の実践、全職員指導案を作成し取組んだ熊本市人権指導室の学校訪問、講師招聘による特別支援教育の校内研修などにより、職員の人権感覚の向上、児童や保護者との信頼関係の向上等が図られたものと考えられる。